

## 新たに棋士となる4名へ2022年度も「J:COM賞」を贈呈 ～ J:COMは将棋界を担う若手を応援します ～



<「J:COM賞」贈呈式の様子>

左: J:COM 常務執行役員 田口和博 中央: 岡部怜央四段 右: 藤井猛九段

JCOM株式会社(J:COM、本社:東京都千代田区、代表取締役社長:岩木 陽一)は、2022年9月11日(日)に開催した「第11回J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」東北大会において、今春、棋士となった岡部怜央四段に「J:COM賞」の贈呈式を実施しました。

J:COMでは、「J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」が第10回を迎えた2021年より、棋士を目標とする子供たちが研鑽に励む奨励会への支援を開始し、奨励会から四段に昇段し棋士となった方々の今後の活躍を祈念し、J:COM賞として記念品を贈呈しています。

今回、山形県出身として13年ぶり4人目の新棋士となった岡部四段に、仙台市で開催された東北大会で贈呈式を実施しました。岡部四段は、女性初となる棋士に挑戦している里見香奈女流五冠の棋士編入試験(9月22日(木)実施予定)の対局相手としても注目されています。

岡部四段のほか、同じく今春に昇段し山口県初の棋士となった徳田拳士四段へ、9月25日(日)開催予定の中国大会で贈呈式を実施予定です。さらに、10月に新四段となることが決定した藤本渚三段、齊藤裕也三段へも順次賞の贈呈を予定しています。

J:COMは、子ども将棋大会の開催、棋士への登竜門である奨励会への支援、新たに棋士となる新四段へのJ:COM賞の贈呈を通じ、将棋文化の普及、夢に向かって挑戦する子どもたちやプロの棋士という狭き門に向かって一途に取り組む若者たちをこれからも応援していきます。

## 【岡部怜央四段の受賞コメント】

私が将棋を始めたきっかけは兄と祖父が指しているのを見て覚えて、地元の将棋教室でだんだん強くなっていったのは今では楽しい思い出となっています。

奨励会には12歳で入会し、鶴岡から3～4時間かけて東京に行き、将棋を指して深夜バスで帰り、翌日は朝から学校に行くという生活でした。負けたりすると関東の人よりも帰り道が長く、悔しい気持ちを人一倍味わったと思いますが、それが「やってやるぞ」というプラスの気持ちになったと思います。

三段までは普通くらいのペースで上がっていきましたが、三段になってからの5年間はとても厳しい世界でした。特に昇段の可能性がなくなったリーグ戦の対局はモチベーションを保つのが難しかったです。

兄は奨励会に同時入会し、先に退会したのですが、東京に出てからは一緒に暮らし、生活のサポートなども含め私が棋士になることを全力で応援してくれました。兄には感謝していますし、自分も頑張らなくてはいけないなと思いました。兄は自分が棋士になったことをとても喜んでくれていると思います。

棋士になった後、思うように勝ってないので焦る部分もあるのですが、7割は勝てるようになり、活躍している若手棋士として周囲が思ってくれるようになりたいと思いますし、お世話になっている棋士の先生方と戦えるくらいになりたいと思います。9月22日に里見香奈女流五冠との棋士編入試験の対局があり注目されると思いますが、里見さんが人生をかけている大一番なので、その気持ちに失礼のない様に対局したいと思います。棋士になって間もないですが、良い経験になると思うので、頑張りたいと思います。

普段、対局の前日にはサウナに行ってコンディションを整えます。勝率が上がったりにして、リラックスできる趣味ですね。あと棋士は勝負事が好きなんですかね、ポーカをYouTubeで見るのにはまっています。将棋とは違う頭を使い、息抜きしています。

棋士を目指すからには奨励会に入ると思うのですが、自分が思うようには勝てない厳しい世界で、その中でも続けていけたのは、やっぱり「将棋が好きだ」という気持ちが一番大事だと思います。この大会に参加している子ども達も、将棋が好きだという気持ちで、これからも頑張ってもらいたいと思います。

## <2022年度 J:COM賞贈呈棋士>

9/11 岡部怜央四段(東北大会内)

9/25 徳田拳士四段(中国大会内)

10月以降 藤本渚三段、齊藤裕也三段

## <2022年 大会概要> ※本イベントは、新型コロナウイルス感染予防対策を講じて開催します。

「J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」(主催:JCOM株式会社、株式会社囲碁将棋チャンネル/共催:公益社団法人日本将棋連盟/協力:白泉社)は、小中学生に将棋の楽しさを知ってもらうとともに、将来の棋士を目指す小中学生の登竜門となる大会を目指して、2012年にスタートしました。

|          |  |
|----------|--|
| 大会名      | 「第11回J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」  |
| クラス      | 全国クラス:地区大会の成績上位者が全国大会に進出   |
| 地区大会     | 北海道大会(札幌)、関東大会(東京)、東海大会(名古屋)、関西大会(高槻)、東北大会(仙台)、九州大会(福岡)、中国大会(広島)   |
| 全国大会     | 2022年11月12日(土) 会場:東京・将棋会館(決勝戦は後日録画放送)  |
| 特設サイト    | <a href="https://www2.myjcom.jp/special/user/event/kids-shogi/">https://www2.myjcom.jp/special/user/event/kids-shogi/</a>  |
| アーカイブページ | 第11回大会を記念し、過去の大会記録や、全国大会決勝戦の棋譜、全国大会特番映像などが確認できるアーカイブページを新設しています。是非ご覧ください。<br><a href="https://www.jcom.co.jp/corporate/csr/shogi">https://www.jcom.co.jp/corporate/csr/shogi</a> |

## JCOM株式会社について [www.jcom.co.jp/](http://www.jcom.co.jp/)

JCOM株式会社(ブランド名J:COM、本社:東京都千代田区)は、1995年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州・山口エリアの11社65局を通じて約561万世帯のお客さまにケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話、モバイル、電力、ホームIoT等のサービスを提供しています。ホームパス世帯(敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯)は約2,206万世帯です。番組供給事業においては、14の専門チャンネルに出資及び運営を行い、ケーブルテレビ、衛星放送、IP マルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。 ※世帯数は2022年6月末現在の数字です。